



見る
聞く
さがす
夢がある
日立市民の
生涯学習

百年塾ひろば

第142号 発行日/2020.11.20
発行/ひたち生き生き百年塾推進本部
編集/広報チーム



10月24日、「『絶景』伊師浜～川尻海岸の『学ぶ探検』ジオツアー」が行われました。新型コロナ感染症対策を駆使し、ウォーキングも兼ねて熱心に地域の成り立ちなどを学びました。



地域で活躍する人材育成をめざし、10月4日から11月15日まで5回シリーズで地域エキスパート養成講座を実施。市内から県北にわたって、地域振興や文化について体験を通して学びました。

百年塾による

「お魚講演会と煮魚作り」



◇日 時 令和3年1月17日(日) 9:30~11:30

◇場 所 会瀬青少年の家・会瀬交流センター

◇内 容 (1) 定置網漁業について他

河田 純さん(久慈漁協組合会瀬支所漁労長)

(2) 魚のさばき方と煮魚作り

綿引真理子さん(百年塾市民教授)

◇持ち物 エプロン、三角巾 ◇参加費 300円/組

◇申込み 12月8日(火)から住所・氏名・電話番号を

百年塾サロンTEL0294-23-9165 ※詳細は12/5市報で

11月歳時記

【七五三】

七五三は、平安時代に始まった子どもの成長に合わせた儀式と言われています。また、江戸時代に3代将軍家光が我が子徳松の長寿を祈願して、旧暦11月15日に行ったのが広まつたとされています。子どもの健やかな成長を願う親心ですね。



百年塾 新たな方法で社会の状況に対応 役立つ情報 心和む企画を提供

間もなく冬場を迎え、新型コロナウィルス感染症の拡大に加えてインフルエンザの流行も心配されます。百年塾ではそうした状況を踏まえ、既存の活動の見直しや新たな方法での活動推進に取り組んでいます。

コロナ対策でできること

～百年塾カフェPart1～

百年塾に関わる人たちが語り合い学びを深めようと昨年度から始まった『百年塾カフェ』が、8月21日（金）、教育プラザで開かれました。Part 1 の今回は「長期化するコロナウィルスと上手に付き合っていくには」がテーマです。

緊急の課題であるコロナ対策について、講師の日立市健康づくり推進課保健師の仲田さんと丹野さんは、新型コロナウィルス感染症に関する最新の情報や注意すべき点等を中心に具体的に解説。1回の丁寧な手洗いで雑菌が90%除去できることやマスクの効果など、分かり易い講演となりました。



コロナ対策は大きな課題

27名の参加者は興味深く聴講、日頃の疑問に関する質疑応答も活発に行われ、有意義な時間を過ごしました。

百年塾では、コロナ禍の中で状況を見ながら今後もこの様な機会を設け推進委員の知見を広げ、市民のみなさんにとって意義のある企画や情報提供を図って行きます。

子どもの活動支援で大切な事

地域における子どもたちの活動を支援するプロジェクトが、地域の実態をより詳しく知って活動に役立てようと、9月23日（水）NPO法人「ひたち親子の広場」代表の森戸裕子さんを講師に研修会を開きました。テーマは「子どもたちに人気の高い活動やその実践方法」です。

森戸さんは「ひたち親子の広場」が活動の柱として行ってきた子どもたちの豊かな成長の支援活動である、生の演劇やコンサートなどの開催から、時代の流れと共に楽しく安心できる場所の確保・

提供へと活動が推移していることなどを説明。時代が求める活動の認識と共に、財源の確保や活動を維持するご苦労などが窺えました。

子どもたちに人気の活動は、大人もいっしょに夢中になれるものであること。また、活動の実践では引っ込み思案な子どもへの配慮を常に忘れないことや、子どもたちの自主性を養い、物を大切にす



子どもの活動支援は地域と共に

る心や福祉の精神の育成を心がけることなどが示されました。

子どもたちが放課後を安全・安心に過ごし、多様な体験・活動ができるることを目指した『放課後子ども教室』の推進が行われている現在の活動について森戸さんは、「子ども支援の活動は、自分たちが中心になるよりもいろいろ人の力を借りることが運営を楽にし発展します」と話し、「これからも地域を巻き込むコーディネーターでありたい」と締めくくりました。

百年塾ミニフェスタを企画

「市民教授6人展」

日 時：令和2年12月1日(火)～6日(日)
午前10時～午後6時

※初日1日は午後1時から、最終日6日
は午後4時まで

会 場：日立市角記念市民ギャラリー
内 容：各種展示・体験
押し花アート、パンフラワー
カラーコーディネイト
親子で楽しく手作りおもちゃ
書道、いけばな・フラワー
アレンジメント

参 加 費：無料、体験は一部有料のものもあります。



市役所大屋根広場のイベント

日 時：令和2年12月5日(土)～6日(日)
午前11時～午後3時

★大屋根広場：日立二高による「お花のじゅうたん」
(作成・展示)

命ある花をアートにして、感動とエネルギーを伝えます。高いところから鑑賞したり、写真を撮っても素晴らしいです。

- ・日立二高吹奏楽部演奏
- ・ストリートオルガン演奏（西野秀雄さん）
- ・キッチンカー（飲み物のみ）

★多目的ホール

- 5日 バルーンアート（大森佑樹さん）
- 6日 ボードゲーム（小松透浩さん）



常陸国風土記の世界を訪ねてみよう ⑤

あきた 飽田の村と仮の浜(田尻町~相田町~小木津町)

奈良時代初頭、全国各地で風土記編纂が行われた中で、現存する5か国うちのひとつで茨城県をまとめた「常陸国風土記」。シリーズ第5回目は田尻～相田～小木津一帯を記述したと思われる、飽田の村と仮の浜を紹介します。

「飽田の村」のいわれ

『常陸国風土記』の多珂郡の条に、次のような記載があります。
 「道前の里に飽田の村がある。古老の話では、倭武天皇が東國の辺境を巡ろうとしてこの野に泊った時、ある人が『この野の近くには鹿が多く、そびえる角は、枯れた蘆の原のようで、吹く息は朝霧の立つのに似ています。また海には鰐魚があって、大きさは八尺ばかりあります。その上、いろいろな珍しい味のものもあり、魚とり遊びの収穫は多いです』と申し上げた。そこで天皇は野原にお出掛けになり、橋皇后を海に遣わし、お互に山と海との獲物のとり比べをされた。この時、野の狩は一日中駆けまわったが一匹の獣もそれなかったのに対し、海での漁は少しの間にたくさんの美味なるものを手になさった。狩と漁が終わり食事の時、『今日の遊猟は、私と皇后が、それぞれ野と海に出かけ祥福（土地の言葉で「さち」という）を競い合った。野の獲物はそれなかったが海の物は飽きるほど食べた』と仰せられた。後の代

の人はその跡を受けて飽田の村と名づけた」と。

飽田の村は、現在の日立市相田町が遺称地と考えられており、当時、この地は自然に恵まれた豊かな土地だったことが窺えます。

仮の浜

風土記ではこの条の続きを「常陸の国守が川原宿禰黒麻呂の時に、大海のほとりの石壁に觀世音菩薩の像を彫った。今も残っている。それで仮の浜と呼ばれている」とあります。

川原宿禰黒麻呂が常陸国守に任命された七世紀末、陸奥国の太平洋岸の蝦夷が不穏な動きをみせていましたので、道前の飽田の村に觀世音菩薩の像を彫り、鎮定の助力を願ったものと考えられています。



田尻小学校の南側の岩壁には、度志觀音が彫られており、仮の浜はこの地だとして1955年に「佛ヶ浜」として県指定史跡とされました。しかし風土記の記述は南から北の順に記されていること、かつ「大海（太平洋の意）のほとり」にあること、海上輸送の拠点としての津（港）を想定できることから、小木津町の東連津川河口がふさわしいとの説があります。



大平原に鹿が大群をなし、その角が枯れた蘆の野原のように見え、海には八尺もあるという鰐魚。海上に面した岸壁に彫られた觀世音菩薩。それはどんな風景だったのでしょうか・・・。その雄大な景色を想像するだけで楽しくなってきます。

参考:日立市郷土博物館発行『常陸国風土記にみる日立』
 ※風土記の記載には諸説あります。



私たちちは百年塾を応援します

2020.7.20～10.29 (敬称略)

【団体】日輪寺

【個人】阿部和宏 笹川孝雄
 荒岡学 尾沼信義 佐藤純子
 平井強 斉田節子 川崎洋子
 國府田ヒロ子 吉田ケイ子
 豊田ハマ 青木昌隆 田畑幸三
 石塚猛 児玉裕文 小松文子
 横村淳 小沼紀子 斎藤直子
 皆川光代 今橋知江 川上勝則
 山田啓子 山野利子 平松光子
 佐藤世津子 澤俊子 白石知子
 小澤泰男 表栄子 好永勝江
 後藤登喜雄 後藤恵美子

須田久美子 鈴木米征 大高明子

仙波嘉織 園原愛子 田山恵子
 大越典一 大森知子

募集中! 子どもたちの楽しい活動を支援します!

- イベントのアイデアと講師探しをお手伝いします。
- 経費の支援を行います。
- 期間:令和3年2月末まで
- 申込:随時受付
 (平日9:00～17:00)
- お問合せは百年塾サロンへ
 ☎0294-23-9165

川柳 応募作品

- | | |
|------------------|---------------------|
| ・ゴミ出しの曜日間違え持ち帰る | ・オンラインはじめ私もオレライン |
| ・GOTOとコロナで旅を迷つてる | ・マスク熱それよりほしい夫婦熱 |
| ・我がひ孫伝い歩きで目離せず | ・コロナ禍で娘・孫とも行き逢えず |
| ◇大和田稔(久慈町) | ・巣ごもりに収束あけの夢旅行 |
| | ・身に着けるマスクは今やファッショニ化 |
| | ・三密で野菜作りが上手くなる |
| | ・オフラインなじめぬ私もオレライン |

市民のみなさんが活用をしやすく！ 百年塾市民教授連絡会議開催



講座募集の説明

10月11日（日）、百年塾市民教授連絡会議が日立市役所503・504号室で開催されました。

はじめに百年塾の組織改定やホームページの活用、イベントへの出展者募集の説明がありました。続いて自己紹介や意見交換が行われ、活発な意見が出されました。連絡会議を通して、市民教授同

士が親睦を深めるとともに、活動を拡げていくことを確認し合う機会となりました。

百年塾では市民の皆さんに市民教授を活用しやすいよう、ホームページの充実を図るとともに楽しいイベントを計画しています。どうぞ、ご参加ください。

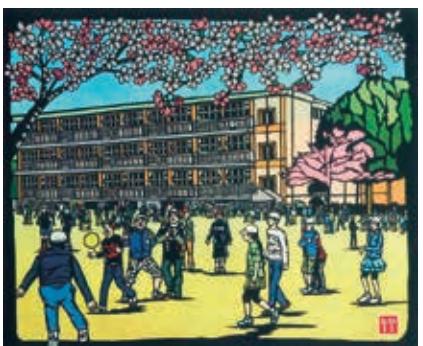


市民教授からも要望が

市民教授登録

2020.7月～2020.9月に登録の方（敬称略）

■竹蓋年男／神峰町（切り絵）



『大沼小学校の昼休み』

竹蓋さんは、母校大沼小学校の66回目の創立記念集会に招かれ、切り絵制作を依頼されました。作品にして寄贈したそうです。

よろしく市民教授・まち案内人です！

日立で唯一のテーブル茶道講師

あかつ よりこ
赤津 順子さん（テーブル茶道/有結流）

若い頃、裏千家の茶道を習っていた赤津さんは一昨年フェイスブックで畳の上ではなく椅子で行うテーブル茶道を知り、これなら正座が苦手でも気軽に楽しむことが出来ると思ったそうです。

さっそく秋葉原の有結テーブル茶道教室に通い、日本テーブル茶道協会のインストラクターと講師の認定を受けました。その後自宅で『有結流奏風～KANADE～テーブル茶道教室』を始めました。他にカルチャーセンターや児童クラブでも体験教室を開いているそうです。「お子様からご高齢の方まで楽しめる茶道」をモットーに総合芸術といわれる茶道を次世代につなげたいと話します。

趣味はスキー、スキーバധイビング、旅行、アイリッシュダンス、手織りなど実に多彩です。

昨年、市民教授にも登録し、まだ活動していなかったので今回の取材を切っ掛けに是非生き生き講座を開講したいとのことでした。

- 百年塾サロン(窓口)では以下の業務を行っています
- 百年塾推進委員登録の受付
- 市民教授の登録、紹介
- 講座・講演の受付
- 生涯学習に関する相談

百年塾には、あらゆるジャンルに約240名の市民教授が登録しています（10月末現在）。

ふるさと検定Aランクの知識をフル活用

ふくしきにひこ
福士邦彦さん（日立のまち案内人）

「趣味は家庭菜園です」と笑顔で話す福士さん。生まれてすぐ日立から岩手に疎開し、16歳の時日立に帰りました。定年を機に日立に役立つことをしたいと、いろいろなボランティア活動をしてきましたが、日立全体の知識も深めたいと勉強し、8年前に「ふるさと日立検定試験」を受けAランクを取得。それをきっかけに日立のまち案内人に登録しました。

「まち案内人は、お客様とのふれあいが新鮮で楽しい。御岩神社の仁王門の説明をしていた際『それは俺が作ったんだよ』というお客様がいて、よくよく顔をみたら高校の同級生でした」と笑います。お客様から教えられることも多く、検定試験はこれからもチャレンジ。Sランクを目指しています。

今後は、現在活動中の助川山保全や、防犯パトロール・立哨・路線バス乗車促進などのボランティア活動と共に、ふるさと検定Aランクの知識をフルに活用したまち案内をしていきたいと意欲に溢れています。

■ひたち生き生き百年塾推進本部

百年塾サロン（日立市教育プラザ1F）〒317-0064 日立市神峰町1-6-11

☎0294(23)9165 FAX 24-5200

E-mail iki100j@net1.jway.ne.jp

ホームページ <http://www.net1.jway.ne.jp/iki100j/>

【事務局】日立市教育委員会 生涯学習課

〒317-8601 日立市助川町1-1-1 ☎050-5528-5126

